

8020 達成率調査
《報告書》

平成 29 年 3 月
仙 台 市

【目次】

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
II. 調査結果の概要	2
1. 対象者の属性	2
2. 歯および口腔の状況	
(1) 「80歳で20本以上自分の歯を有する者の割合の増加」の達成状況	3
(2) 現在歯及び喪失歯の補綴の状況	4
(3) 歯周組織の状況	4
3. 歯科保健行動等	
(1) 現在の健康状態	5
(2) 食生活及び喫煙の状況	5
(3) 歯科保健行動等	6
(4) 口腔機能の状況	8
4. 8020達成者と非達成者の口腔内状況および歯科保健行動等について	
(1) 8020達成者と非達成者の「男女別」構成	9
(2) 口腔状況について	9
(3) 歯科保健行動等について	10
(4) 口腔機能の状況について	11
5. まとめ	12
歯科健康診査票	13

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市の「第2期いきいき市民健康プラン〔計画期間：平成23～34年〕」は、乳幼児から高齢者までのあらゆる世代の市民を対象とした健康づくり計画として位置付けられるもので、平成29年度に中間評価年を迎える。

今回の調査は、いきいき市民健康プラン策定時に設定した指標「80歳（75～84歳）で20歯以上有する人の増加」の達成状況（中間値）を把握するとともに、平成17、21年度に実施した調査結果と比較しながら、仙台市における高齢者の歯と口の健康の実状を把握することを目的としている。

2. 調査の概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地区 | 仙台市全域 |
| (2) 調査対象 | 75歳～84歳までの男女 |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 調査方法 | 調査対象者に受診券・歯科健康診査票を郵送し、歯科登録医療機関にて口腔診査（歯科健康診査）を実施 |
| (5) 調査期間 | 平成28年10月1日～11月30日 |
| (6) 抽出方法 | 住民基本台帳より男女比、年齢構成、居住区等を考慮のうえ、無作為抽出 |
| (7) 調査項目 | 1) 問診項目
①基本属性（年齢・性）
②主観的健康状態
③食生活及び喫煙について
④歯科保健行動について
⑤口腔機能の状況について
2) 口腔診査
①現在歯の状況
②むし歯（う蝕）の罹患状況
③歯周病の罹患状況
④喪失歯と補綴状況
⑤口腔清掃状況 |

II. 調査結果の概要

今回、調査対象として抽出された75～84歳の市民の被調査者は2,000人であったが、実際に受診した579人についての調査結果は以下のとおりである。

1. 対象者の属性

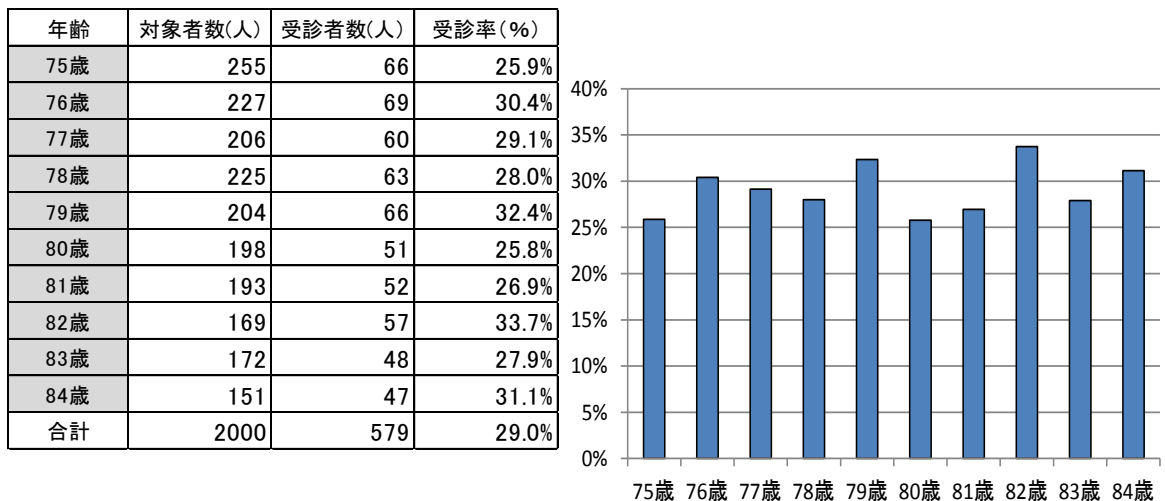
本調査への参加者（受診者）は579人（男性272人、女性307人）で、転居先不明等により受診券が返送された3人を除いた全体の受診率は29.0%であった。性別の受診率は、男性（32.3%）の方が女性（26.5%）より5.8ポイント高かった（表1）。

表1 受診者の性別

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
男	841	272	32.3%
女	1159	307	26.5%
合計	2000	579	29.0%

年齢別の受診率は76歳、79歳、82歳、84歳で30%を超えていた（表2）。

表2 受診者の年齢



居住区別の受診率は、青葉区・太白区で高かった（表3）。

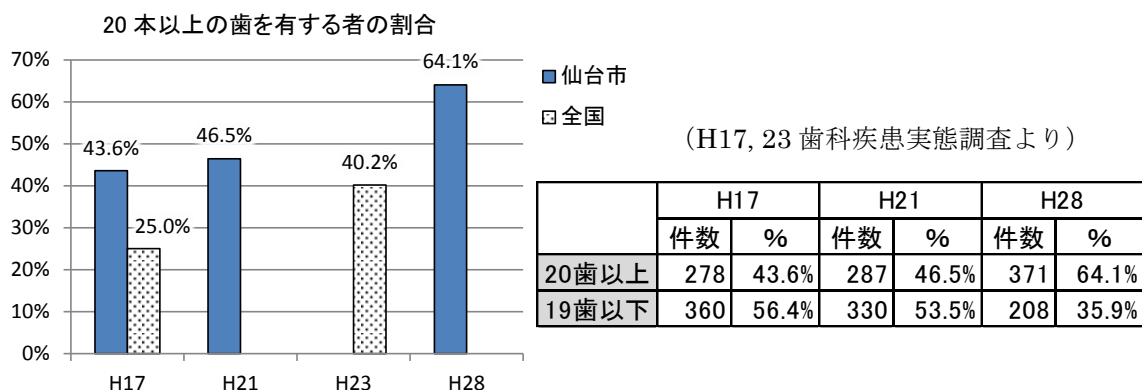
表3 居住区別受診者数と受診率および構成割合

	対象者数	受診者数	(受診率(%)	構成比(%)
青葉区	558	175	31.4%	30.2%
宮城野区	327	84	25.7%	14.5%
若林区	246	59	24.0%	10.2%
太白区	462	141	30.5%	24.4%
泉区	407	120	29.5%	20.7%
合計	2000	579	28.9%	100.0%

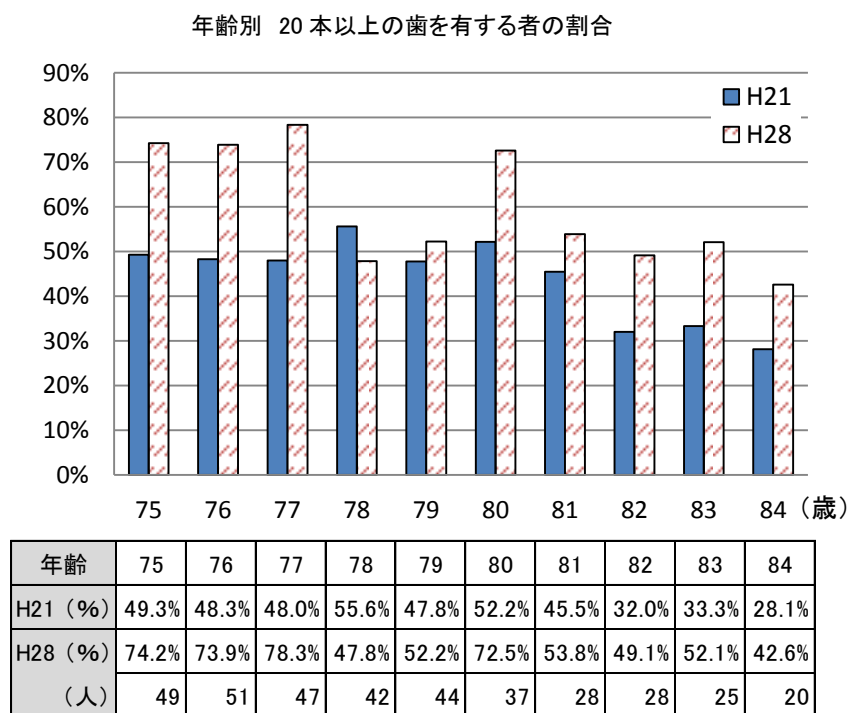
2. 歯および口腔の状況

(1) 「80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合の増加」の達成状況

第2期いきいき市民健康プランでは「80歳（75～84歳）で20歯以上自分の歯を有する人の増加」を指標としている。被調査者となった579人の内、20本以上自分の歯を保有している者は全体の64.1%で、平成21年度調査と比較すると17.6ポイント増加していた。また、平成23年度に厚生労働省が行った「歯科疾患実態調査（全国）」と比較したところ、仙台市は平成21年度時点で6.3ポイント、今回調査では23.9ポイント高かった。



また、年齢別の20本以上の歯の保有者率は、78歳以外の年齢では平成21年度よりも増加していた。



(2) 現在歯及び喪失歯の補綴の状況

被調査者全体の一人平均現在歯数は、20.1本であった。年齢別に見ると、80歳までは20本以上であるが、81歳以降は20本に達していなかった。性別では男性が20.8本、女性が19.5本となっており、男性の方が多くの歯を保有している傾向が認められた(表4)。

一人平均現在歯数の内訳は、健全歯6.8本、処置歯12.3本、未処置歯1.1本であった。喪失歯を義歯等で修復する補綴処置が完了している人は全体の64.8%であった。

また、自分の歯が全くない無歯顎の人は21人(3.6%)であった。

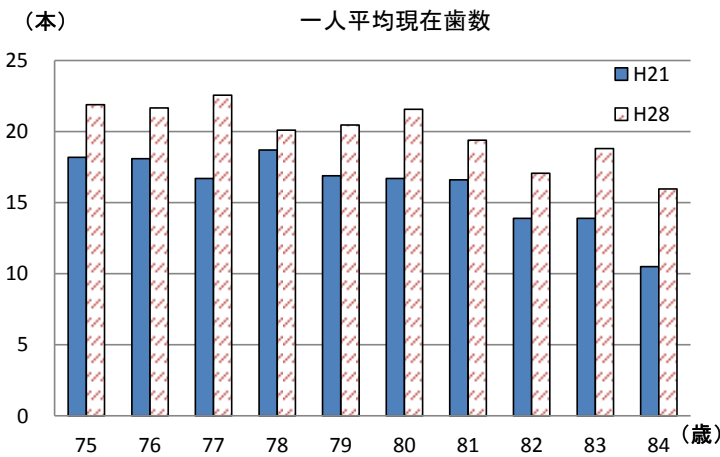


表4 現在歯及び喪失歯の状況

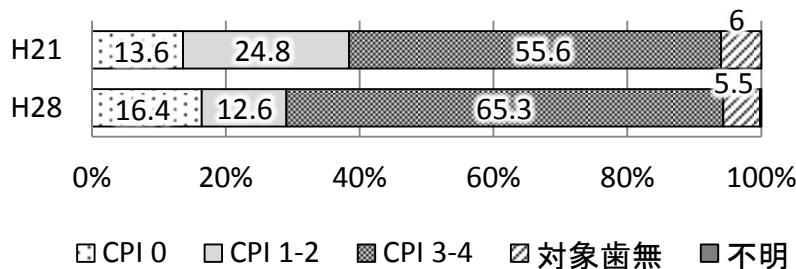
		H28			H21
		男性	女性	全体	全体
一人平均歯数	現在歯数	20.8	19.5	20.1	16.8
	健全歯数	8.2	5.6	6.8	4.8
	処置歯数	11.5	13.0	12.3	11.0
	未処置歯数	1.1	1.0	1.1	1.0
欠損部	無歯顎者(%)	2.9	4.2	3.6	6.0
	補綴完了(%)	67.9	62.2	64.8	71.2

(本)

年齢(歳)	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	計
H21	18.2	18.1	16.7	18.7	16.9	16.7	16.6	13.9	13.9	10.5	16.8
H28	21.9	21.7	22.6	20.1	20.5	21.6	19.4	17.1	18.8	16.0	20.1

(3) 歯周組織の状況

歯周疾患の罹患状況および進行度をCPI (Community Periodontal Index) を用いて判定したところ、進行した歯周炎 (CPI 3以上) に罹患していると判定された人は全体の65.3%と半数を超え、平成21年度よりも9.7ポイント増加した。



CPI	CPI 0	CPI 1	CPI 2	CPI 3	CPI 4	対象歯無	不明
人数	95	44	29	267	111	32	1
%	16.4	7.6	5.0	46.1	19.2	5.5	0.2

注：平成28年度より新基準による歯周組織検査に変更されたが、前回調査との比較のために前回と同基準のCPI値で結果を示す。

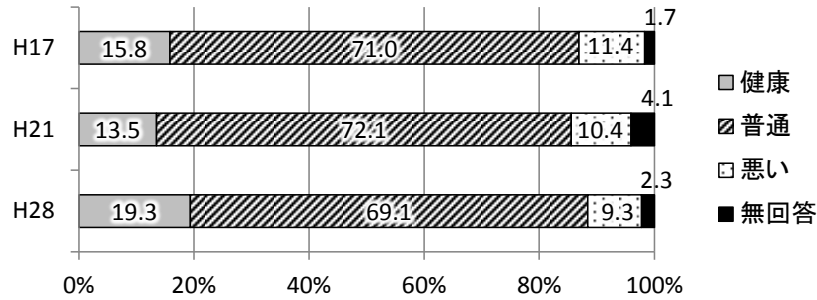
性別では、男性70.2%、女性60.9%で男性で進行した歯周炎が多い傾向にあった。

3. 歯科保健行動等

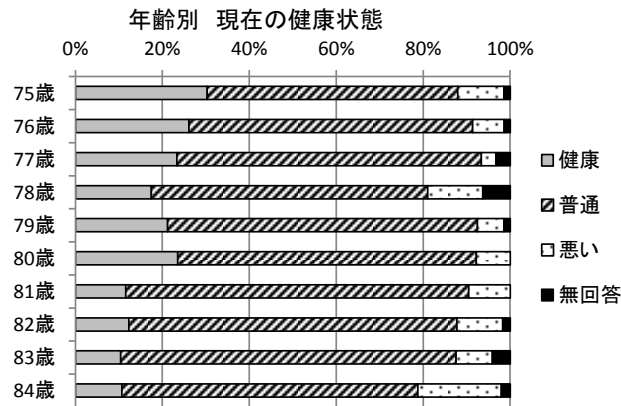
問診票より得られた主観的健康感および歯科保健行動等に関する項目別の調査結果は以下のとおりである。

(1) 現在の健康状態

現在の健康状態は「健康」「普通」と回答した人は全体の 88.4%で、平成 21 年度調査と比較すると 2.8 ポイント増加していた。

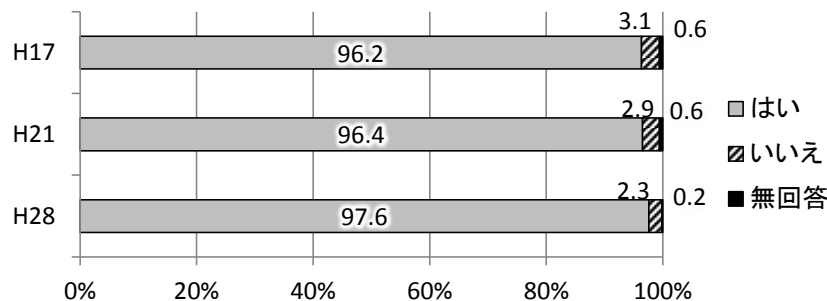


性別ではほとんど差は見られなかったが、年齢別にみると、年齢増加とともに「健康」「普通」回答者は減少傾向にあった。



(2) 食生活及び喫煙の状況

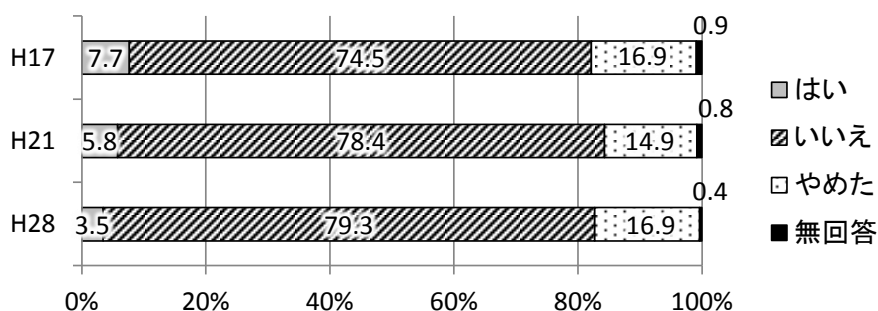
「規則正しく食べている」と回答した人は全体の 97.6%で、平成 21 年度調査と比較すると 1.2 ポイント増加していた。



性別では、男性 (96.0%)よりも女性 (99.0%)が多かった (p=0.045)。年齢別では、78歳で90.5%であったが、その他の年齢では96%を超えていた。

喫煙は歯周病のリスクを高めるとされ、第2期いきいき市民健康プランでは「喫煙が及ぼす健康影響（歯周病等）についての十分な知識の普及」を行動指標として掲げている。

今回、喫煙の状況を調査したところ、「喫煙している」と回答した人は全体の3.5%であり、平成17年から回を追うごとに減少していた。

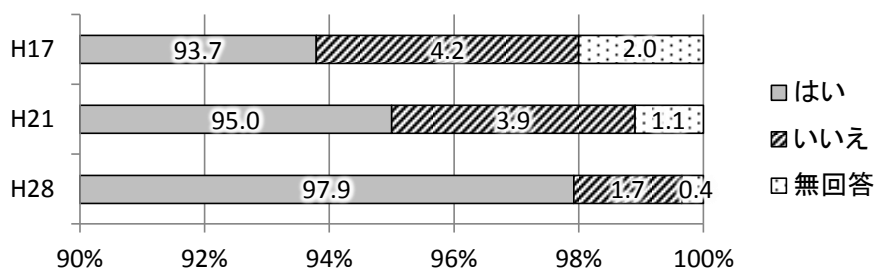


喫煙者率を性別で比較すると女性（1.3%）よりも男性（5.9%）の方が多かった（ $p<0.001$ ）。また、年齢別では75歳で喫煙者が9%を超え、77、83歳で0%であったが、その他の年齢では数%程度であった。

(3) 歯科保健行動等

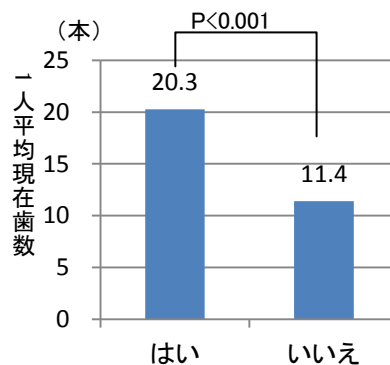
① 口腔清掃習慣について

1日1回以上歯みがき習慣のある人は全体の97.9%で、平成17年度から増加し続けていた。



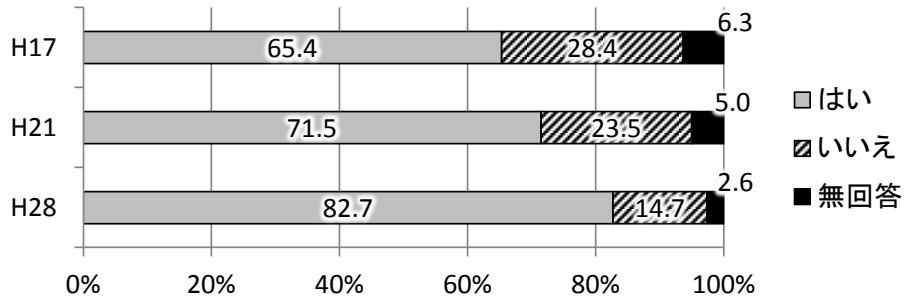
性別では男性（96.0%）よりも女性（99.0%）で高かった（ $p=0.045$ ）。年齢別では80、81、83歳で100%であったが、それ以外の年齢でも93%を超えていた。

また、一人平均現在歯数は歯みがき習慣がある人がない人に比べて約9本多かった（ $p<0.001$ ）。



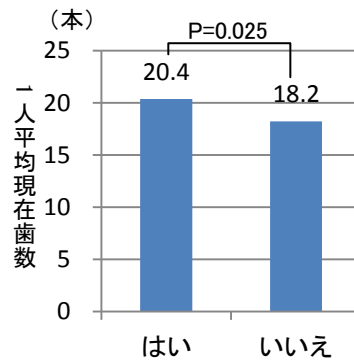
② かかりつけ歯科医の有無について

かかりつけ歯科医があると回答した人は全体の 82.7%で、平成 17 年度から調査回ごとに増加していた。



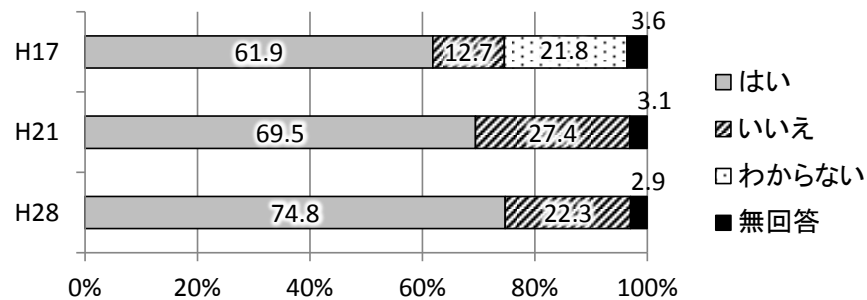
性差は認められなかったが、年齢別では、78、80、84 歳では 70%台であったが、それ以外の年齢では 83%以上であった。

また、一人平均現在歯数はかかりつけ歯科医がある人がない人に比べて約 2 本多かった ($p=0.025$)。



③ 歯科疾患の予防について

歯科疾患は「自分で気をつけることで予防できると思う」と回答した人は全体で 74.8%であり、平成 17 年度から調査回ごとに増加していた。



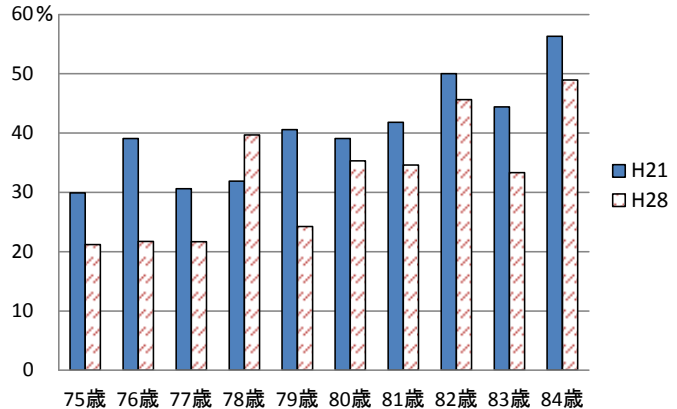
性別ではほとんど差が見られず、年齢では 79 歳で 86.4%と高かった以外は、どの年齢も 65~79%程度であった。

(4) 口腔機能の状況

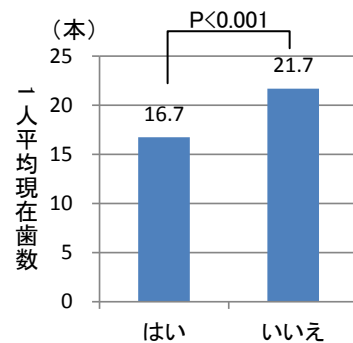
市区町村が実施する「介護予防事業（地域支援事業）」において、介護が必要になる可能性があるとして予想される人に対して判定のために用いられている「基本チェックリスト」の3項目を使って口腔機能の状況を調査した。

① 咀嚼機能について

「半年前に比べ固いものが食べにくくなった」と回答した人の割合は全体の31.8%であり、H21年度（38.2%）よりも減少していた。性差は認められなかったが、年齢の上昇とともに「固いものが食べにくい」と回答した人の割合が多くなる傾向にあった。

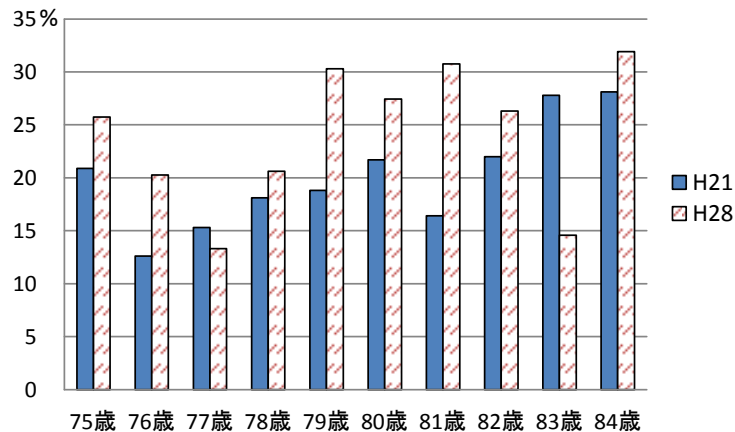


また、一人平均現在歯数は「固いものが食べにくい人」は、「そうでない人」に比べて約5本少なかった ($p<0.001$)。



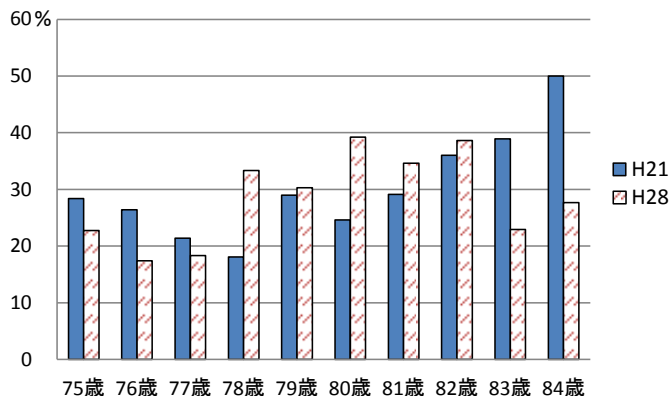
② 嚥下機能について

「お茶や汁物でむせることがある」と回答した人は全体の24.0%で、H21年度（18.6%）よりも5.4ポイント増加していた。性差は認められなかった。年齢別に見ると、77、83歳で15%以下であったが、それ以外の年齢では20%を越え、H21年度よりも増加していた。



③ 口の渇きについて

「口の渇きが気になる」と回答した人は全体の 28.2%で、H21 年度 (27.6%) よりも 0.6 ポイント増加していた。性別では男性 (23.3%) よりも女性 (32.6%) が多かった (p=0.016)。年齢別に見ると 76 歳～82 歳までは「気になる」と回答した人は増加傾向であった。

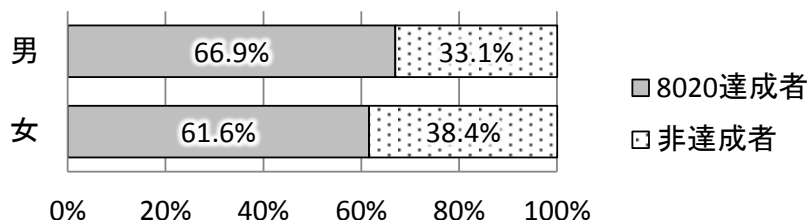


4. 8020 達成者と非達成者の口腔状況および歯科保健行動等について

この項では、調査対象を年齢が 80 歳以上で、20 本以上の自分の歯を持つ人と(以下「8020 達成者」とする)と 19 本以下の人 (以下「非達成者」とする) に区分し、口腔状況および歯科保健行動等について比較した結果の概略を示した。

(1) 8020 達成者と非達成者の男女別構成

8020 達成者は全体の 64.1%で、男性 66.9%、女性 61.6%で 8020 達成者は男性で多い傾向にあった。

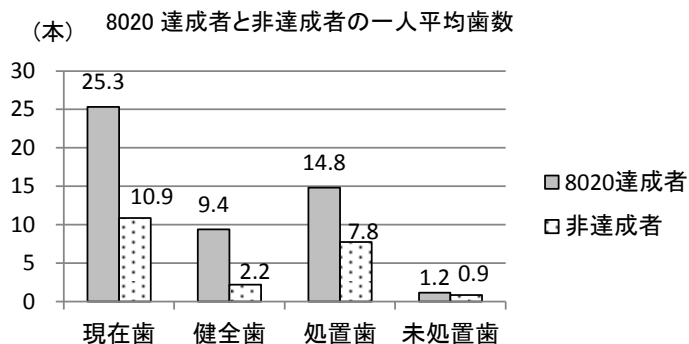


(2) 口腔状況について

① 現在歯の状況

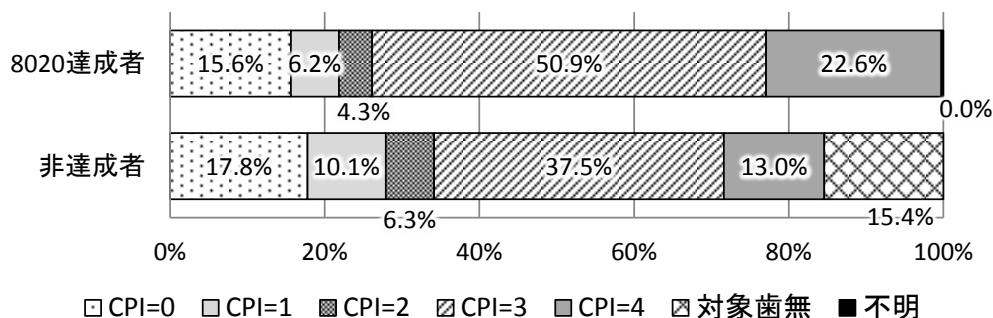
一人平均現在歯数は 8020 達成者で 25.3 本、非達成者で 10.9 本であり 14.4 本と大きな差が見られた。

8020 達成者の現在歯の状況は一人平均健全歯数 9.4 本、処置歯数 14.8 本、未処置歯数は 1.2 本であった。非達成者では、それぞれ、2.2 本、7.8 本、0.9 本となっており、8020 達成者と比べると、健全歯の占める比率の差が大きかった。



② 歯周組織の状況

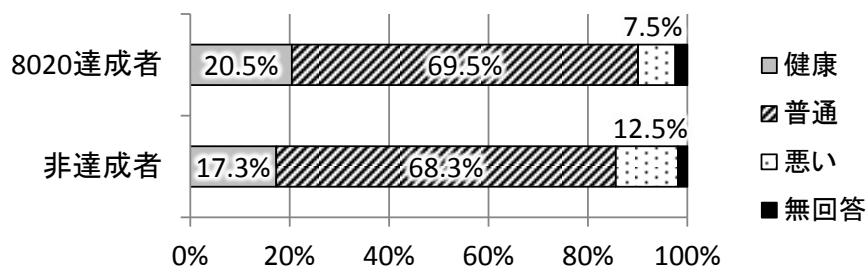
8020 達成者のうち進行した歯周炎（CPI 3 以上）に罹患している人の割合は 73.5%で、非達成者の 50.5%に比べ多かった（ $p=0.011$ ）。



(3) 歯科保健行動等について

① 現在の健康状態

「健康」「普通」と回答した人は 8020 達成者（90.0%）が 非達成者（85.6%）よりも多い傾向にあった。



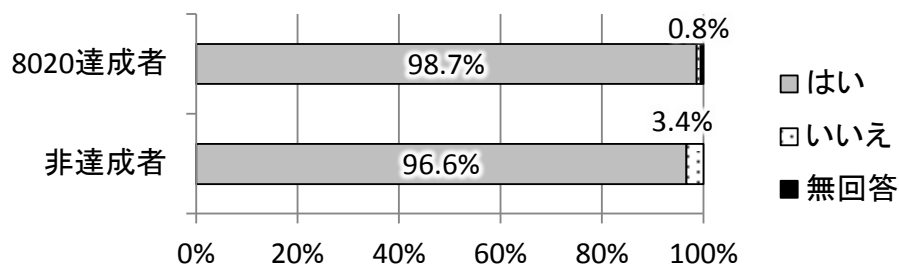
② 食生活及び喫煙について

8020 達成者の 98.1%、非達成者の 96.6%が「規則正しく食べている」と回答しており、その差は 1.5 ポイントと、ほとんど差はなかった。

喫煙者の割合は 8020 達成者 3.5%、非達成者 3.4%で差は認められなかった。

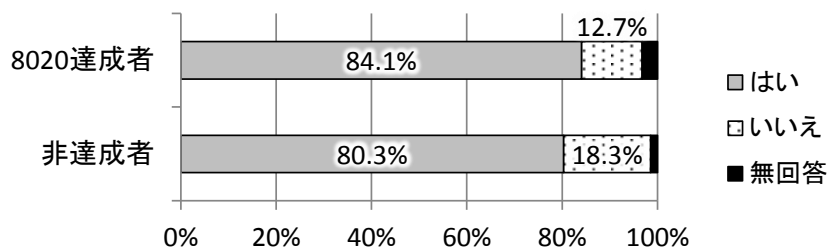
③ 口腔清掃の習慣について

「1日1回以上歯みがきをしている」と回答した人の割合は、8020 達成者が 98.7%、非達成者が 96.6%で 8020 達成者の方が 1日1回以上歯みがきをしている割合が有意に多かった（ $p=0.04$ ）。



④ かかりつけ歯科医について

「かかりつけ歯科医がある」と回答した人の割合を比較すると、8020 達成者（84.1%）が、非達成者（80.3%）よりも高い傾向にあった。より多く歯を残し、8020 を達成するためには「かかりつけ歯科医」による定期的な管理の必要性を示唆する結果であった。



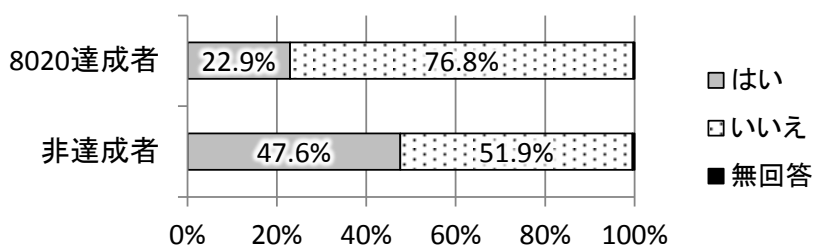
⑤ 歯科疾患の予防について

歯科疾患は「自分で予防できると思う」と回答した人の割合は、8020 達成者（74.7%）と非達成者（75.0%）間で、差が認められなかった。

(4) 口腔機能の状況について

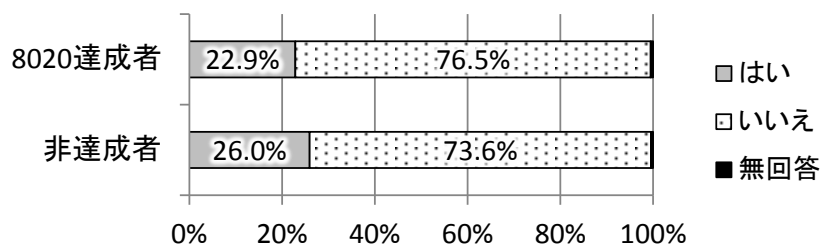
① 咀嚼機能について

8020 達成者では「固いものが食べにくい」と回答した人が 22.9%であったのに対し、非達成者では 47.6%で、両群間には有意な差が認められた ($p < 0.001$)。8020 達成者は咀嚼機能が維持されているといえる結果であった。



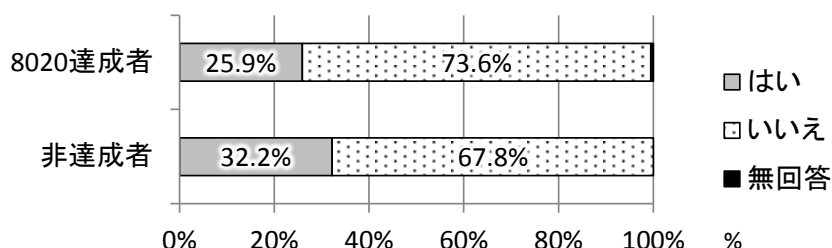
② 嚥下機能について

「お茶や汁物等でむせる」と回答した人の割合は 8020 達成者（22.9%）の方が、非達成者（26.0%）よりも少ない傾向にあった。



③ 口の渇きについて

8020 達成者のうち、「口の渇きが気になる」と回答した人は 25.9%であり、非達成者（32.2%）よりも少ない傾向が認められた。非達成者においては義歯等の装着や唾液流出量の減少等により口の渇きが助長されている可能性が推察された。



5. まとめ

本調査において、80歳（75歳～84歳）で20本以上の現在歯を保有している者の割合は64.1%で、全国（平成23年度歯科疾患実態調査）と比較すると約1.6倍という結果が得られ、本市の8020の達成状況は良好で、健康日本21（第二次）の目標値50%や第2期いきいき市民健康プラン目標値55%の両方を達成した状況となっている。

H21年度の前回調査と比較し、口腔清掃習慣やかかりつけ歯科医に関する「歯科保健行動」は良好で「現在歯数」が増加し、「固いものが食べにくい人」が減少していた。しかし、「むせやすさ」や「口の渇き」「歯周組織の状態」が悪化する傾向にあった。

また、今回の調査で、8020達成者は、非達成者に比べ「1日1回以上歯をみがく」「半年前と比べ固いものが食べにくくなっていない」と回答した人の割合が有意に多く、「主観的健康状態が良い・普通」「かかりつけ歯科医がある」人も多い傾向が認められた。

以上のことから、口腔清掃習慣やかかりつけ歯科医をもつことで8020を達成する可能性が高くなり、生涯にわたり自分の歯を保持する（8020を達成する）ことは、主観的健康感を高め食生活を豊かに維持できるといった高齢者の生活の質の向上に寄与することが明らかとなった。

8020達成者が増加する一方で、「むせやすさ」や「口の渇き」などの口腔機能の低下や、歯周病が増加しているといった問題点も認められ、口腔機能や歯周病に対する対策が必要であると思われた。

ここに受診券をのりで貼付して下さい。

平成28年度 8020達成率調査 診査票

(仙台市提出用)

No. _____

※受診券の貼付がない場合、市から検診料の支払いが不可能になります。

太枠の中をご記入ください。

診査日 平成28年 月 日

ふりがな氏名		住所	区						
電話番号	—	生年月日	昭和	年	月	日	(歳)	性別	男・女

あてはまる項目の回答に○印をご記入ください

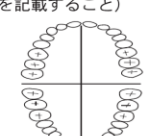
質問	回答
1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。	健康・普通・悪い
2 食事を規則正しく食べていますか。	はい・いいえ
3 一日一回以上は歯みがきをしていますか。	はい・いいえ
4 定期健診や歯石除去などの予防処置を受けているかかりつけの歯科医がありますか。	はい・いいえ
5 たばこを吸っていますか。	はい・いいえ・やめた
6 歯や歯ぐきの病気は自分で気をつけることで予防することができますか。	はい・いいえ
7 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	はい・いいえ
8 お茶や汁物等でむせることがありますか。	はい・いいえ
9 口の渇きが気になりますか	はい・いいえ

① 現在歯・喪失歯の状況 (喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入)

右								左							
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
健全歯数(✓) ②				未処置歯数(C) ③				処置歯数(O) ④				現在歯数 ②~④の合計 ⑤			
								要補綴歯数(△) ⑥				欠損補綴歯数(△) ⑦			

⑦ 欠損補綴物等の記載

(Br等の補綴物の記号を記載すること)



【義歯】

- ・なし
- ・あり (使用・使用していない)
- 上顎 (FD・PD)
- 下顎 (FD・PD)

⑧ 歯肉の状況

	17または16	11	26または27
BOP			
PD			
BOP			
PD			
	47または46	31	36または37

【歯肉出血BOP】

- 0: 健全
- 1: 出血あり
- 9: 除外歯
- X: 該当歯なし

【歯周ポケットPD】

- 0: 健全
- 1: ポケット 4~5mm
- 2: ポケット 6mm以上
- 9: 除外歯
- X: 該当歯なし

⑩ 口腔清掃状態

1. 良好 2. 普通 3. 不良

【歯石の付着】

1. なし 2. 軽度(点状) 3. 中等度(帯状)以上

⑪ その他の所見 あり・なし

- ・歯(楔状欠損等) ・歯列咬合 ・顎関節
- ・口腔粘膜 ・その他()

⑨ 個人コード(最大値)

歯肉出血	
歯周ポケット	

※9 除外歯を含めない

⑫ 判定区分【該当番号に○, 2.3の場合は, a~eにも○をつけること】

1. 異常なし

- ・未処置歯, 要補綴歯, その他の所見が認められず
- CPI: 歯肉出血0, かつ, 歯周ポケット0

2. 要指導

- ・未処置歯, 要補綴歯, その他の所見が認められず
- a. CPI: 歯肉出血1, かつ, 歯周ポケット0
- b. 口腔清掃状態不良
- c. 歯石の付着あり(軽度, 中等度以上)
- d. その他指導を要する所見あり

3. 要精密検査

- a. CPI: 歯周ポケット1
- b. CPI: 歯周ポケット2
- c. 未処置歯あり
- d. 要補綴歯あり
- e. 詳しい検査や治療が必要な所見あり

医療機関名・診査医名